NEWS LETTER

図書委員発行、R06年度第1回

『クビキリサイクル 青色サヴァンと戯言遣い』 西尾維新

L1　木村斗優

この本は主人公と友人が、天才の集う島で首から上のない死体の謎を解き明かすというのが大筋です。

謎解きの中で、しっかり読んでいれば気づけたかもしれない、もっと物語の中の人々の言動に注意していれば気づけたかもしれない、と読み終わった後は思います。しかし、何度読み直してもこの本に隠された仕掛けすべてに気づける人はいないと思います。ぜひあとがきも読んでみてください、驚くような仕掛けがされていますよ ！

皆さんもぜひこの本を読んで作者の西尾維新によって仕掛けられた言葉の魔法に包まれてみてください ！

「人獣細工」 小林 泰三

L2　附田羽琉

この本は豚の臓器を移植された少女の物語です。彼女は母親がいなく、先天性の病気が理由で生後まもなく豚の臓器を全身に移植され続けてきました。彼女の手術を担当していたのは実の父親でした。専門医であった父の死をきっかけに彼女は自らが受けた手術の記録を調べ始めます。しかし、父の部屋に残されていたのは豚と人間の生命を弄ぶ実験記録でした。その実験記録を見て彼女は自分についてのさらに衝撃的な事実を知ることになります。

ぜひ読んでみてください！

『魍魎の匣』 京極夏彦

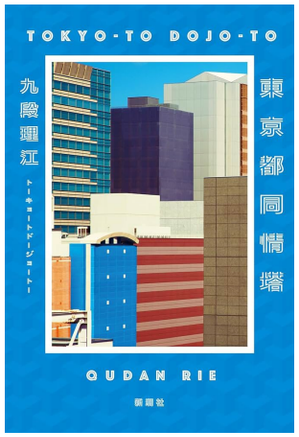
C2　笠原達之

京極夏彦さんはとあることで有名な推理小説作家さんです。そのあることとは、作る小説の長さです。私が読んだ京極夏彦さんの小説の中で一番長かったのは上下巻である塗仏の宴です。その長さは何と総計で3000ページほどあります。他の小説でも1000ページをゆうに超すものがほとんどです。ですから、読み応えはとてもあります。そんな京極夏彦さんの小説ですが、実はシリーズものが大半です。その中でも、百鬼夜行シリーズが有名です。このシリーズは戦後まもない日本で色々な奇怪な殺人事件が起こるのですが、それを神主兼古本屋兼憑き物落としの主人公中禅寺秋彦がどんどんと解決していく物語です。魍魎の匣はそのシリーズの第二巻として発表され、映画や舞台にもなりました。詳しいことは推理小説なので言ってしまうとネタバレになりますが、この小説の最大の謎は 五分間という短い間に一人の少女を2階からどの様にして誘拐したか？　になります。この物語も例によって1000ページ弱あるのですが、とても面白いのでぜひ見てみてください。

『東京都同情塔』 九段理江

E2　小川月羽

　トーキョートドージョートー。そのタイトルの口なじみの良さに、思わず手を伸ばしました。この本の中で、ホモ・ミゼラビリスとは――犯罪者や受刑者のことを指し、また彼らを「同情されるべき人々」として定義します。「あなたはなぜ犯罪者ではないのですか。」その一つの答えは、あなたが環境に恵まれたからです。良い行いをしても褒められずに大人になった彼らをあなたは犯罪者と呼べますか？気になった方はぜひ手に取ってみてください。



『そして誰もいなくなった』 アガサクリスティー

M3 平戸一華

イギリスの孤島に招かれた、年齢も職業もバラバラの10人の男女が奇妙な殺人事件に巻き込まれていく物語です。
逃げ場のない孤島で、だれが犯人なのか、いつ自分が殺されるのかがわからない状況で追い詰められていく人間の心理を見事に描いた作品になっています。

『烏に単は似合わない』 阿部智里

Z3　吉田翔稀

人間の姿と烏の姿を持つ「八咫烏」が住む世界「山内」。世継ぎである若宮の后選びが始まる。大貴族の四家、北家、東家、南家、西家から遣わされる后候補。春夏秋冬を司る四人の姫が后の座を競う中様々な事件が起こる。10巻続く「八咫烏シリーズ」の一作目で、コミック化、アニメ化もされている作品です。二作目は一作目の裏側のような話で、二つで一つというような作品です。読みやすいので是非、二つとも読んでみてください。

『数学ガール』　結城浩

E4 赤沼秋星

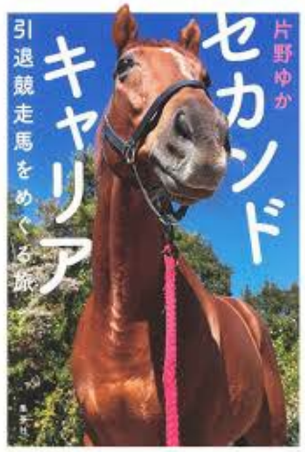
私のおすすめする「数学ガール」シリーズは学校の枠を超えた新しい数学の世界に4人の数学ガールと主人公が挑戦するもので、内容はガロア理論や不完全性定理など多岐にわたります。この本の特徴は前提知識がいらないこと、物語調に内容が進むので読みやすいことです。本旨に入るまでに必要な知識を理路整然と与えてくれるので最後まで躓くことなく読み進むことができます。新しい数学への第一歩として数学が好きなあなたにお勧めのシリーズです。

NEWS LETTER

図書委員発行、R06年度第1回

『セカンドキャリア　引退競走馬をめぐる旅』　片野ゆか

Z4　佐藤照真



馬という生き物は誰もが知っている生き物だ。しかし、主に競馬界では引退競走馬が問題になっている。競走馬として過ごした時間の何倍もの時をセカンドキャリアとして過ごさなければならない。引退後に消息不明となる事例も数多く存在する中、この問題を解決するために著者片野ゆかさんは、様々な関係者に取材を始める。

著者は愛玩動物の専門家であり、馬について詳しくない方も著者と一緒に現状を知り、問題について考えることができる。引退競走馬の旅を追体験してみてはいかがだろうか。

『道具としてのベイズ統計』　涌井良幸

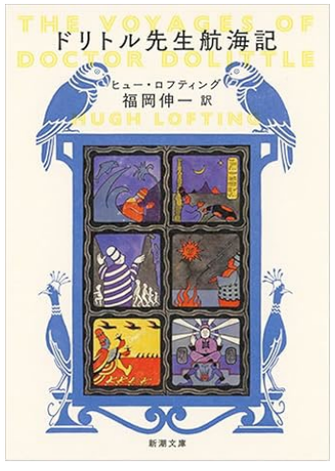
M5 早野碧海

迷惑メールのフィルタリングソフトやインターネットの検索エンジンには、ベイズ統計学が活用されています。ベイズ統計学とは、「私たちの想定する確率（主観確率）」と「ベイズの定理」というたった一つの定理を用いて、さまざまな推定を行う統計手法です。

本書は、ベイズの基礎から応用例までを、入門者にもわかりやすく解説した一冊です。一般的な統計学とは異なるベイズ統計学のシンプルさと奥深さを、サラッとでも体感してみてほしいと思います。

『ドリトル先生航海記』ヒュー・ロフティング　訳)福岡伸一

C5　沼田春海



イギリスの小さな町に住む少年トミー・スタビンズは、動物と話すことができる博物学者ドリトル先生と動物たちに出会い、ドリトル先生の助手になる。ある日、彼等は海の上を浮いて漂うクモサル島で行方不明になった偉大な博物学者ロング・アローを探すため、冒険の旅に出る。

優しく温かなドリトル先生や、動物たちの皮肉がきいたセリフ、美しい冒険の描写など、時間を忘れて読んでしまうお話です。ぜひ読んでみてください。

『本は眺めたり触ったりが楽しい』 青山南　　G科・助教　矢吹文乃

「本はどう読んでもいい！（読まなくてもいい）」

本につけていいキャッチコピーじゃねえだろ（笑）

帯文がふるっていたので思わず買った。タイトルは『本は眺めたり触ったりが楽しい』。めっちゃわかる。本は眺めたり触ったりが楽しい。読むのはあんまり楽しくない。

まあ、本を読むと面白いのは確か。それはそう。でも、楽しいのと面白いのは違う。私は、本とふれあう時間でいちばん楽しいのは「買った後、読む前」だと思う。表紙やカバーに使われている紙を眺めて「なんていう名前の紙かな～」と考えているときが最高にHappy。ちなみに『本は眺めたり触ったりが楽しい』の表紙に使われている紙は「色上紙 厚口 白茶」です。

ぶっちゃけ本って読んでも楽しくはなくないか？　なんたって文字が多いし、時間がかかるし、首も疲れるし。眺めたり触ったりしているときのほうがよっぽど落ち着いて向き合えているような気がする。だから、「本はどう読んでもいい！（読まなくてもいい）」と言ってもらえるとすごくうれしい。許された感じがする。あー、よかった。本ってどう読んでもいいんだ。なんなら読まなくたっていいんだ。

積読本の祟りに慄いているみなさん、吉報です！　『本は眺めたり触ったりが楽しい』によれば、「読む」と「手にとって眺める」はほとんど同じことらしいです。ただし、この積読免罪理論はあくまで本を積みまくっている人向けの祟り回避用の呪文なので、国語の授業中には持ち出さんでくれ。

都合が悪くなってきたから話題変えるけど、「読書は旅だ」ってよく言われるじゃん。読書が旅なら、積読は『るるぶ』だよね。きれいな写真を眺めて、「ここ行きたいね」とか「これ食べたいね」とか言いながら、絶対２泊３日には収まらんだろうっていう欲望全部乗せのスケジュールを組んじゃう感じ。

本を眺めたり触ったりしている時間は、『るるぶ』の時間だから、妄想の時間だから、無限大の楽しさがある。ところがいざ行きましょうって段になると、宿予約して、航空券買って、荷造りして、このへんで既に予算の半分が消えてて、当日雨で、クソ重いキャリーケースを運んで、保安検査場通って、発着場で１時間近く待たされて、ようやく乗り込むんだけど、滑走路は詰まってなかなか飛ばないし、膀胱では検査場で一気飲みしたお茶が暴れ出すし。そんな紆余曲折を経て、やっと飛び立った瞬間に、アッ、酔い止め飲み忘れた！――激萎え。こっちが読書。

だけど、苦労を乗り越えて旅に出たら、ゲロゲロの飛行機酔いを吹っ飛ばすようなすばらしい思い出が生まれることもたまにあるわけ。私にとっては『本は眺めたり触ったりが楽しい』を読んだときがそれだった。本って眺めたり触ったりが楽しいんだけど、読むとときどき面白いんだよな～。いや～みんなにも読んでほしいな～。

あれっ。もしかして、私はきみらにこの本を読ませようとしているのか？　いやいや、まさかね（笑）　本はどう読んでもいい。もちろん読まなくたっていい。読まなくたっていいんだよ。